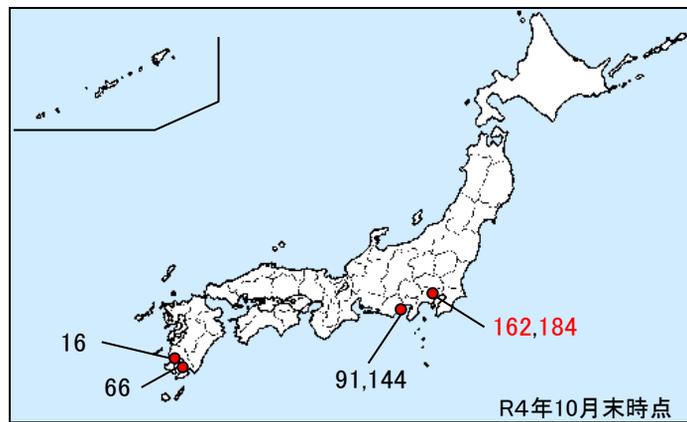


海外まき網漁業

漁業種類の概要

中西部太平洋やインド洋において、船団を組まずに349トン型及び760トン型を主体としたまき網漁船1隻で主にかつお・まぐろを漁獲。一航海は35～45日であり、年間7～8航海の操業を実施。



計画数:6件(実証終了:4件、実証中:2件、実証予定:0件)

取組と成果

【生産向上】

- 広範で気象・海象が複雑なインド洋において、FADs(集魚装置)の共同管理、ヘリを活用した漁場情報の共有等、760トン型の導入による操業の効率化
 - 入漁料が高騰している太平洋島嶼国水域において、複数隻グループ化によるVD※の有効利用、漁場情報の共有、外地転載による運搬船を活用した操業効率の向上
- ※VD:1隻が1日あたり操業する単位。毎年操業に必要なVDを島嶼国から購入
- 太平洋島嶼国と合併し、外地基地操業による操業効率の向上

ヘリによる漁場探索

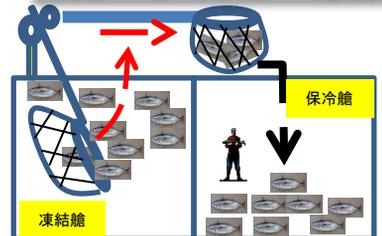


広域な漁場探索

760トン型漁船



スクープマスター方式



魚船内での人力による作業の減少

【コスト削減、省力化、安全対策、省エネ化】

- SGプロペラの装備、燃油リアルタイムモニター設備を採用した改革型漁船等によるコスト削減
- 海まき船で初めて導入したスクープマスター方式等による、凍結魚船から保冷魚船へ漁獲物の移動作業の省人化

【販売経路・高付加価値化】

- 漁獲物の2ヶ所汲み取り方式、冷海水予冷による鯉節向け原魚冷凍システムを採用し、高鮮度の鯉節原料を供給
- 低脂質のインド洋産カツオを活用したブランド化

【地域貢献・魚食普及】

- 鯉節の主産地である焼津・枕崎・山川地域へ良質な鯉節原料を安定供給

【船内環境の改善】

- 船内インターネットの導入による乗組員の船内生活の快適性の向上

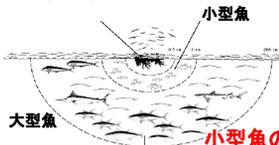
【資源管理】

- FADs操業を極力削減し、ヘリ搭載による素群れ主体の操業や大目網を使用した操業の実施による小型まぐろ類の漁獲を削減

素群れ主体の操業

FADsに付着した海藻、小魚、幼魚、小エビ等

FADs操業



小型魚の混獲大

素群れ操業

大型魚がイワシ等を索餌する際を狙って操業

小型魚の混獲少



今後期待される取り組み

- メバチ小型魚の混獲低減に配慮したFADs操業
- さらなる大型化により国際競争力を確保
- 他海域との併用により、中西部太平洋水域への依存度を軽減
- ドローンによる魚群探索
- グループ化による、VD利用の高度化、漁場情報の共有等による操業体制の効率化を実施